

令和7年度 ひだまり第3 地域連携推進会議 会議録

令和8年3月15日(日) 13:00～ ひだまり第5

出席:藤森 幹朗、柳 春夫、中村 幸江、遠藤 亜希子、藤川 洋、打田めぐみ、香取 友美
渡部 博貴、
A様(地域の方)、B様(利用者ご家族)、C様(入居者)

自己紹介 はじまりにあたり、管理者藤森より挨拶。そのまま司会進行を務める。

司会者の左側より順番に所属名前中村、香取、柳、藤川、C様、遠藤、打田、渡部

地域から A様 一言お言葉を頂く

家族 B様 一言お言葉を頂く

資料の確認の後、会議開始

藤森:今回第1回目の開催ということで、何の目的で集まるのか?詳しく分からないまま参加されたというお話を頂いたので、配布資料2 地域連携推進会議とはについて、のなかの1.利用者と地域との関係づくり2. 地域の人への施設や利用者に関する理解の促進3.施設やサービスの透明性・質の確保4. 利用者の権利擁護掲げられた4項目について説明。

この会議の開催は、令和七年度より、義務化された。

① 施設等・地域の連携

・ゆめグループ福祉会について

柳:ゆめグループ福祉会の中で、生活寮ひだまりはかなり古い時期、

ネットワークゆめ工房(作業所)とほぼ同時期に開設された。

当時、障害者のグループホームはほとんど無かったころ画期的なことであった。

中村:江東区はグループホームが減っている、全部で27か所しかない中で、

ゆめグループは8か所を維持している。他法人等は減らすところもある中、ゆめはさらに重度の方のグループホームを増やす予定。頑張っていきたい。

・ユニットひだまり第3の紹介

藤森:最初に大島3丁目に出来たグループホーム(障害福祉サービス・共同生活援助)

が ひだまり第3。10年ほど前に東砂3丁目にひだまり第4が誕生。

藤川さんが世話人になり、第3と第4でユニットを構成。3年前に第5が出来てユニットに加わり、今年の2月1日に区型生活寮だった、ひだまりが ひだまり第1として、ユニットに加わる。

現在は4ユニット、入居者17名。

大島には一か所ひだまり第2が区型生活寮として、まだ残っている。

各世話人から各ユニットの紹介。

ひだまり第3 遠藤：4名はゆめグループのB型事業所。1名区内の別法人のB型に通っている。高齢の方が多く、最高齢70歳 67～60代の方3名

一番若い方が57才。本日3月15日で70才を迎えた入居者さんもいる。

ひだまり第4 藤川：ゆめグループのB型作業所利用2名 他2名が就労、区内の他法人のB型作業所に1名が通所、毎日通っている。

ひだまり第5 打田：1人ゆめグループの作業所。区内の他法人の作業所に2名通っている。介護デイサービス併用の方もいる。

ひだまり第1 香取：全員ゆめグループのB型事業所に通っている。

近隣からの苦情等の共有 配布資料参照

事前に用意した報告資料を基に各ユニットの世話人から報告があった。

ゴミ出しのこと。ベランダに放置していたごみのこと、

夜間の騒音のことなど、共通する事例が多い。

藤森： 苦情を伝えていただけることで、誠意をもって対応すれば、支援の幅も広がり、近隣の方々との関係性もよくなることもある。以前ご迷惑をかけたことのある、コンビニの店長さんとも親しくなった。

地域行事のご案内

ひだまり第1：町会の日帰りバスハイクには参加して、皆さん楽しみにしている。

花火大会では町会で花火の見える場所に椅子を用意していただき、見物した。

ひだまり第3：隣の6丁目団地では時々イベントがあつて、つい最近も防災フェスティバルに参加。大島3丁目でのイベントについてはわからない。

Aさん マンション住まい、東砂もマンションが増えてきて、自治会との関わりは希薄になっている。祭りなどは今もいろいろ行っている。

藤森： 北砂地域でも配布した「まぜこぜセンター計画」に先駆けてゆめ工房駐車場で月に一度土曜日にまぜこぜマルシェを行っており、グループホームの皆さんの集合場所になっている。

② 施設やサービスの透明性・質の確保

利用者の日常生活の様子について

配布した、資料を基に、各世話人から報告。

Cさん：ひだまり第3は最近、朝食賄いの職員さんの朝食後全員でラジオ体操を始めた。

経営状況の報告

配布資料 令和6年度収支計算書。

運営規定より抜粋した利用料（自己負担）説明書に沿って説明。

藤森：ご覧いただいて分るように、支出は人件費がほとんどで、さらに行き届いた十分なサービスを行うためには、人を増やして欲しいが、増やすことが中々出来ないのが現実。障害程度区分で報酬が大きく変わってくる。第1では1名申請中。

まだまだ、不勉強で加算ことなど知らないことが多い。いま長期入院中の方がいてそれも、厳しいが、長期入院対応加算という加算があることを教えていただき、記録などを整理して申請した。

中村：令和6年の改定では、人員配置区分が減らされ一本化されたことによって打撃を受けた。

感染症、自然災害対策について

遠藤：配布資料を基に説明。

今年度は非常用持ち出し袋が用意出来なかったもので、手配して内容物の確認、各自が持ち出して避難所に移動することを想定して訓練を行った。薬など予備も持って行ったほうが良い。保存食料飲料水はいつの間にか期限切れになっている場合もあり、定期的の確認するのも大事。車椅子利用者、歩行に難のある利用者がいることもあり、垂直避難は課題が多い。

BCP策定では城東高校を避難所に想定しているが、情報がないので公開日など作って欲しい。民間企業、商業施設など解放してもらえるのか知りたい。

藤川：今年度は2月22日に実施した。水災を想定して実施。

非常用の持ち出し袋、ひとつの大きな袋に入れたため、重くて大変だった。ユニット会議でも発案があった、個別の非常用持ち出し袋を現在手配中。配布資料

柳：ひだまり第5も2月22日に行った。

藤森：6年前：台風19号のとき警戒レベルが高くて避難所に避難したひだまり第1報告を。

中村：警戒レベル3になったので避難。エレベータのある小学校が避難所で町内会の方たちが誘導してくれた。ダンボール・毛布など配布してくれた。備蓄品もあり、手荷物は少なくて済む。しばらくは過ごせそう。高齢者、小さな子供のいる家庭からも避難。教室も一部開放してくれた。異様な雰囲気ですトレスは感じたのか、利用者の皆さんは横になって休むことができなかった。
大島地区の ひだまり3 ひだまり2（生活寮）とひだまり4は ゆめ工房に田中直樹さんが車で迎えに来て避難した。

③ 利用者の権利擁護

虐待、事故、ヒヤリハットの報告

配布資料に基づく各事業所世話人より、報告。

ひだまり第3 遠藤：脱衣所での転倒、対応とその後の対策

服薬の怠業

イベント会場での見失い

ひだまり第4 藤川：便失禁をした利用者への対応。

怠業と服薬確認

ひだまり第5 打田：調理中、鍋の取手が外れ落ちた。

ひだまり第1 香取：怠業、飲み忘れや重複服薬。

質問

Bさん：グループホームで生活が出来なくなることはあるのだろうか？

判断の基準があるのか。職員の人数も増やせないと大変だと思う。

中村：医療的ケアが必要になり、継続できず、医療的ケアの出来る施設に移ることはある。

藤森：日中の活動先があり、生活ができる方たちに支援計画立てており、ご家族にも是非、定期的に支援計画の話し合いに出ていただきたい。

藤森：怠業の問題が一番多い事例。

ポケット型カレンダーに入れて管理した場合、持ち忘れ、声掛けの怠りなど確認が必要なこと。

藤森：ガスコンロは入居者さんが使う場合もあるので、IH器具に交換するなどより安全な環境にして行きたい。

遠藤：電子レンジで入居者さんが誤って使うこともあったので、気を付けている。

Cさん：夕食に出た団子で喉を詰まらせそうになった。世話人さんに背中を叩いてもらい。自分で出すことが出来た。

藤森：誤嚥の問題も大変な事故につながる。

支援者の様子・利用者の意向、要望など

ひだまり第4・第5:

週末に、外出をしたいという要望が多く出ており、
土曜日に打田さんが、外出に連れて行ってもらえるのを楽しみにしている。

藤川：写真撮影の上手な利用者さん、画才のある利用者さん、いっぱいいるので
地域の皆様にも発表できる機会を作りたい。

藤森：北砂マルシェにも見に行って集まるだけではなく
バザーや販売など参加できる場になると、もっとみんな張り切るかも。

会議終了 16:00

会議終了後 ひだまり第1→ひだまり第4→ひだまり第3の順に見学会を行った。
それぞれの世話人による説明、入居者さんたちとの交流を済ませて終了。

17:00

会議風景

